

くらし部会

1. 今年度の活動目標・目的（前年度から引き続き）

「地域の暮らしの充実」

障がいの種別に関わらず、多様な暮らしを選択できる地域をめざす。

「地域における持続可能な生活基盤づくり（ソフト・ハード両面）」

2. 部会開催状況

- ① 6月23日（木）10時00分～12時00分 参加者 14名
- ② 8月25日（木）10時00分～12時00分 参加者 11名（ほか実習生3名）
- ③ 11月4日（金）13時30分～15時30分 参加者 13名
- ④ 1月11日（水）13時30分～15時30分 参加者 12名

3. 部会の取組、実施内容

取組	実施内容
緊急時の相談先や対応時の課題の整理、流れの見える化	『障がいのある人のための緊急時対応フロー図』を作成した。素案をもとに部会の中で意見を出し合い、当事者・当事者家族に配布する簡易版と、事業者・行政機関向けの詳細版の2種類を完成させた。
障がいの重い方が地域で安心して暮らせる体制づくりに関する検討 ①人材確保について	居宅介護事業所へのアンケートを実施。障がいの重い方の暮らしを支える居宅介護事業所の現状と、人材確保・育成に向けての取組について意見を伺った。 それを受けて、初任者研修や専門研修への助成を検討。また、若い世代の取り込み、福祉業界のPRのため、SNS研修会の開催を予定している。
障がいの重い方が地域で安心して暮らせる体制づくりに関する検討 ②居宅介護事業所のサービス提供の中で見える課題等について	居宅介護事業所へのアンケートから、全般的な人材の不足、医療的ケアや行動援護等の専門的支援を行える人材の育成といった課題が、いくつかの事業所から共通のものとして挙げられた。それらの課題の共有し解決に向けて話をする場を設けるとともに、事業所間の横のつながりを作る試みとして、部会からの呼びかけで、居宅介護事業所連絡会を開催した。6事業所8名が参加。

4. 成果

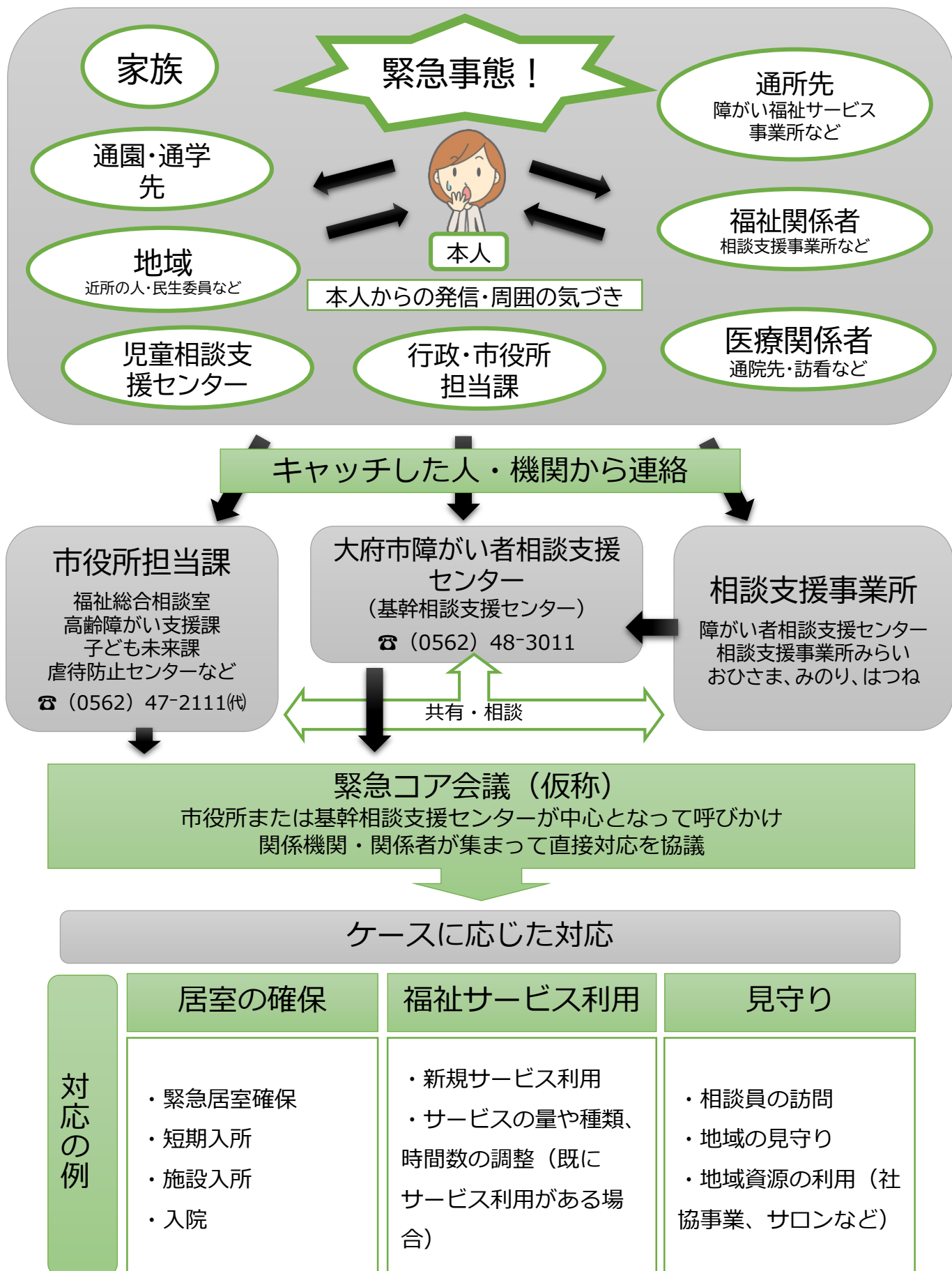
- ・『障がいのある人のための緊急時対応フロー図』（別紙）を作成することで、緊急時の動きを視覚的にもわかりやすい形で整理することができた。当事者（当事者家族）、福祉事業者、地域（民生委員、自治区等）、行政機関、医療機関等への配布を想定している。また、緊急時に対応について協議する場として、「緊急コア会議」の設置を提案。緊急時に当事者と家族を支えるための明確な枠組みを作ることができた。
- ・各居宅介護事業所の感じている課題や支援にあたっての難しさを、アンケートを通して把握することができた。複数の事業所が、全般的な、また専門的な支援を行うことのできる人材の確保・育成を課題として挙げていたことから、居宅介護事業所連絡会を開催し、課題の共有及び解決に向けての意見交換の機会を設けることができた。それぞれの事業所での人材確保・育成に関する工夫や努力が話された。市全体での人材確保を考えるための第一歩となったと思われる。その一環として、3月3日に、市の企画広報課職員を講師として、SNSの勉強会を企画している。

5. 課題（次年度以降の実施事項）

《令和3年度、令和4年度の協議内容からみえてきた課題》

- ①支援度の高い方のための、手厚いくらしの場の不足
 - －手厚い支援の必要な方のためのGHなどがない
 - －短期入所事業所が市内にない
 - －生活介護事業所の不足
 - ②グループホームやひとり暮らしのための体験利用の場の不足
 - ③居宅での生活や余暇を支える、居宅介護事業所への支援
 - ④地域福祉を支える人材育成・人材確保
- ・①～④のいずれも、事業所の枠を超えて、市全体の課題として考えていく必要があると思われる。
 - ・令和5年度の部会構成がまだ分からないため、くらし部会で第7期障がい福祉計画の作成を担っていくのか等、不明点が多い。いずれにしても、令和3年度・4年度の協議を通してみえてきた上記の①～④を、地域における課題として、第7期障がい福祉計画の中に盛り込んでいけるとよいのではないかと。

障がいのある人のための緊急時対応フロー図



◇このフロー図は、主に、身体障がい・知的障がい・精神障がい・発達障がい・難病の方を対象としています。
 ◇裏面に、医療機関や緊急時連絡先の記入欄があります。（おおぶ・あったか あんしんヘルプカード）

障がいのある人のための緊急時対応フロー図 (詳細)

